



物心ついたときから身の回りにデジタル機器があり、インターネットが当たり前の環境で多くの子どもたちが育ってきています。環境への適応力が高く、物おじせず様々な事柄を素早く吸収することができます。子どもを信じて、「習うより慣れよ」という環境づくりに挑戦するのもよいのではと思いました。休み時間、iPad を片手に自らの学習を進める子どもの姿が見られる日は、そう遠くないかもしれません。

今回のテーマは、「学習する学校を考える」とありました。自分の視野を広げるためにも、また参加してみようと思っています。 明石市教育委員会学校教育課指導主事 今市 伸

## 教育フォーラム『学習する学校』第1回 要約メモ

### 【妹尾 昌俊(教育研究者)】

著書「教師と学校の失敗学」(PHP 新書)を書いたきっかけ

長野県・白樺学園の6年生児童の作文(オンラインでみんなに会えてうれしい)

→同じ公立学校(義務教育段階)で学校間での取組の差が大きい。これでいいのか?

コロナの特殊事情として対応のまずさを安易に自己正当化しているのでは?

学校の苦しい事情もわかるが・・・(人・モノ・カネの不足、ビルド&ビルド)

今の教育は学校都合で動いていないか?

コロナ危機はこれまでの慣性を変えるチャンス

→子ども本位で何が重要か、優先順位と劣後順位を考える。

与えるばかりの教育を見直す。

なぜ日本の学校は変わらないのか?

→責任分担の曖昧さ、教師像との葛藤、過去の成功モデルへの依存、組織学習の脆弱さ  
リーダーシップの不足

学校をめぐる将来のシナリオ

→ 萎縮し閉鎖的な学校 → 地域に開かれた学校 → 学習する学校

### 【小高 美恵子(埼玉県 戸田市立戸田東小学校 校長)】

Mission 全ての人を笑顔(Well-being)に ~自律~

Vision 人生100年時代を支える学びを創る「令和の教室」の実現

~子どもを主語に、教師は学びの伴走者~

Concept 「自走・共創」

~全職員が50センチ革命を起こすチェンジメーカーに~

「学び」を止めない!プラン・「心の温度を上げる」児童支援プラン・「令和の働き方」プラン  
学校文化?の壁(当たり前)を問い直す(教育の天気図を見えていますか?)

民間教育と公教育、教育と実社会、教科(系統主義)と経験主義、同一年齢集団、

前例踏襲、形状記憶機能、意識改革・風土改革、共通理解・共通行動、実践知や暗黙知、

一斉・画一型教育システム、文系・理系、年功序列、同調圧力、予定調和、時間対効果、

加点主義と減点主義

「ビジョンの共有」「共通理解・共通行動」「周知徹底」「チーム〇〇」「組織の一員として」等々、  
そして「意識改革」「マインドセット」が大切とは言えけれど・・・?

学校経営のコンセプト

・プロジェクト型経営 ~自走・共創する組織~

全員参加のミッション型組織による学校運営

・教室を科学する ~産官学との連携~

Ed Teck による実社会とつながる学び(PBLの深化とSTEAMへの進化)

- ・学びを科学する ～3Kからの脱却～  
科学的根拠による授業改善(EBPM)  
GIGAからTERAへ

### 【小林 誠司(ソニー→ミライプラス)】

- ・学びの場をつくる。  
教育者と外部の人が共に学び合う場(読書会、映画ダイアログなど)
- ・教員の意識を変える  
教員研修、教育研究会での講演、職員室改革ワークショップ
- ・子どもたちの学びを育む  
探究型学習、プロジェクト型学習、対話型学習、キャリア教育

### 【中山 弘(ホンダ→2030 VISION Project)】

- ・2020年 新学習指導要領全面实施  
個別最適な学び・協働的な学び、校則の見直し、学校の働き方改革
- ・2020年3月～コロナ対応  
一斉休校、オンライン、消毒作業、連絡・報告、行事見直し、夏休み短縮  
GIGAスクール構想(1人1台タブレット端末、ICT導入)、不登校・支援級の増加  
→学校は「大変」(大きく変わる=転換期)

これまで

日本の教育は優れている。「知・徳・体」の一体化、PISAの成績も上位  
文科省・教育委員会の方針・通知も多。いたれりつくせり感

そのおかげで

子どもたちは従順で大人しく、仲間を大切に、まわりと同調しながら均質で自己肯定感  
はさほど高くない。(「よい子」を育成できた)

学校の成績が重視され、社会に出たら学ぶことはしない。

→疑問を持つ教師・保護者はいなかった。

しかし「これではいけない」と気づいてきた人も出てきた。

「子ども本位」の未来をどうつくるのか？

封建社会 → 民主社会 上意下達 → 自由闊達 他律 → 自律

遵守 → 対話 不易 → 創造 「教育」(教え育てる) → 「共育」(共に育む)

学びを提供する側のニーズ → 学びを受ける側のニーズ

「つくる人 本位」 → 「使う人 本位」

「共育」への転換(自律・対話・共創)

子どもが真ん中(子どもの可能性を信じる)

学校はいれもの、先生は伴走者、親は支援者、地域が支える(大人も学び合う)

子どもを中心に大人も学び合う場？

未来をつくる学校？

「学習する学校」とは？

学校・家庭・社会をつなぐ → 地域に開かれた学校？

コミュニティ・スクールの進化版？

子どもを中心に大人も学び合う場？

未来をつくる学校？

## 「学び合い、共につくる みんなの学校」

これを皆で一緒に考えながら共有することから始めていきたい。

### 【所感】

どのパネラーにも共通していた言葉は、「子ども主体」「子ども本位」「子ども中心」と「教師は伴走者」、「共育(学校・保護者・地域・その他の者が一緒に考えながら学ぶ、創る)」といったことだろうか。ふと、学習指導要領の前文の話を思い出した。

日本の学習指導要領に則った教科学習は、ある程度の基準で子どもの学力をつけるのに貢献してきた。しかし、人生100年時代を迎えた今、「学ぶ」意義も変化(進化?深化?)してきたと感じる。学習指導要領にも初めて「前文」が示され、改めて幼・小・中・高一貫したこれからの教育について述べられている。キーワードは「社会の創り手(学び続ける人材の育成)」である。今日の急激な社会変化に対応していくためには、「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている」(学習指導要領 前文抜粋)、いわゆる「個別最適な学び」、「協働的な学び」は必須である。

また、「学び続ける人材の育成」を目指すには学校教育だけでは限界がある。幼・小・中・高の一貫した教育と合わせて、家庭や地域との連携及び協働が必要である。生涯学習の実現は学校教育と社会教育の融合に他ならない。だから「学校づくり＝まちづくり」なのである。これまでである意味閉ざされてきた学校の「教育課程」を家庭や地域と共有し、どのような資質・能力を身につけなければならないか、またそのためにどのような学びが必要かを一緒に熟議し、その実現を図っていかなければならない。それが「社会に開かれた教育課程」であり、それを担う仕組みが「コミュニティ・スクール」であると考える。

明石市のすべての小・中学校に学校運営協議会が設置されコミュニティ・スクールが導入された。しかし、コロナ禍で人を集めることに気を遣う日々が続いている。そんな今、何をすべきか?何ができるか? わたしはまずは「情報の発信」が大切だと考えている。学校がどのような考えでどのような学習を組んでいるか、学校でどのような問題が起こっているかなど、いいことも悪いことも家庭や地域に知ってもらおう。それは一部の人だけではなく、できるだけ多くの年齢層、多くの人数に知ってもらおう必要がある。そのために、学校運営協議会にとどまらず、まちづくり協議会を通して自治会への情報発信、地域に住む高校生や大学生等への情報発信をしていく。まずは学校に興味をもってもらうことに努めたい。学校ホームページの充実以外にも学校を知ってもらう方法を検討していく。もう一つは「カリキュラム・マネジメント・マップ」の作成である。これは先生方も研究として取り組みやすいと思われる。総合的な学習の時間を「地域単元」に一本化する。それを軸に関わりのある教科・単元をリンクさせていく。また、多くの人と関われる内容を盛り込み、「学校カリキュラム」(最終的には「地域カリキュラム」)として確立していく。この2つを今年度の核としてコミュニティ・スクールの仕組みを生かした学校づくり・まちづくりを進めていきたい。学校は「学習する組織」になっているか?という妹尾氏の問いに「Yes」と自信をもって答えることのできる組織を目指したい。

明石市立松が丘小学校長 北迫 嘉幸

感想を寄せていただいたお二人の先生ありがとうございます。

今市指導主事からは、GIGA スクール構想がもたらす変化といった視点からの感想を、北迫校長先生からは未来の創り手としての子どもを主語にした学びのあり方から生涯学習へ、そしてコミュニティ・スクールをとおしての「学校づくり＝地域づくり」のプランなど決意表明的な感想をいただきました。

“第1回教育フォーラム『学習する学校』”の動画がYouTubeにアップされました。お二人の感想を読まれて、Youtubeでフォーラムの様子をご覧になれるのはいかがですか。学校内外関係な

く、たくさんの方に見ていただけたらと思います。ご覧になられてよかったですら感想等を寄せていただくとありがたいです。

そして、“学校が未来を創る子どもたちが育つ仕組みになっているか” といった対話が生まれればいいなと思っています。

### “第1回教育フォーラム『学習する学校』”

<https://youtu.be/Pdj7MBrF7qA>

コロナ禍の中、こうしたオンラインでの研修が一気に広がりました。そして今回のように著者が参加し、直接考えを聞くことができたり、対話できたりするといったフォーラムが増えています。そして何よりも最近の傾向として、オンライン開催後、YouTube にアップにアップされるということが多く、フットワークの良さを感じます。こうした学べる場をうまく活用していくことが、学校が「学習する組織」に、そして生涯学習につながっていくのだろうなと思います。

教育フォーラム「学習する学校」の次回の予定です。よかったですら参加されてみませんか。

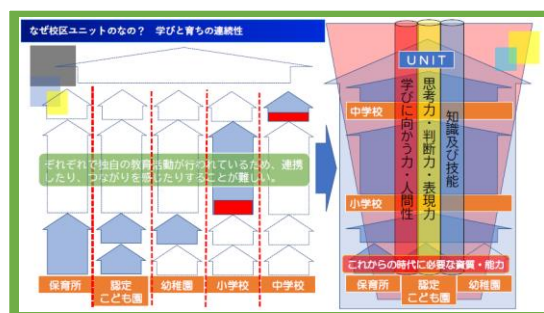
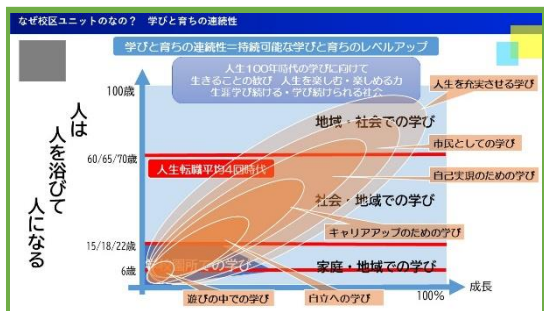
### 第2回：『学習する学校』を考える（8月末ごろ）

・「学習する学校」とはどのようなものか、どのようにつくっていけば良さそうかを考えます。

Peatix のアプリで申し込むことができます

## 軽井沢風越学園をとおして、「12年間+α」の学びと育ちの連続性を考える

8月4日に朝霧中校区 UNIT 夏季研修会が開かれました。そこで、「なぜ校区 UNIT なの？ 学びと育ちの連続性と」のテーマで話をさせていただく機会をいただきました。7月に開かれた校区 UNIT 担当者会での本所指導主事より説明のあった、UNIT でのグランドデザインにつながる話をさせていただきました。「12年間+α」の学びと育ちの連続性を考えるにあたって“軽井沢風越学園の大切にしていること”をとおして校区 UNIT の意義や UNIT でグランドデザインを創る価値について考えてみました。軽井沢風越学園は 2020 年 4 月開講した幼稚園、小学校、中学校の子どもたちが同じ校舎で年齢の壁を超えて「じっくり たっぶり ゆったり まざって」遊ぶ 学ぶ “幼小中混在校”です。幼小中一貫校ですが、あえて“幼小中混在校”と名乗られています。その幼小中混在校とあえて名乗っておられるところに、幼小中 12 年間の学びと育ちを連続させる学校デザインをされていることがうかがえます。そして風越学園が学校デザインをするベースにあるのが「どんな子どもにも幸せな子ども時代を過ごしてほしい。遊びが学びへとつながっていく、この人間として自然な育ちを大切にしたい学校をつくりたい。」という強い思いです。この「遊びが学びへとつながっていく、この人間として自然な育ちを大切に」という考えは、校区 UNIT のグランドデザインを考える上での基本になる考えではと感じています。小学校に入ったら、中学校に入ったらこうした力が必要だから、入学までにはという考え方になりがちのところを、0 歳から始まる「遊びが学びへとつながっていく、この人間として自然な育ち」をつないでいくことがグランド



デザインで見える化されることにより、保幼小中の教職員だけでなく、保護者の方、地域の方も含め共有することができるようになったらいいなと考えます。そんなグランドデザインを考える過程の対話こそがこれからの学びにイノベーションを起こすことにつながるのではと考えています。

(文責：北本)